

JIO新築住宅かし保険「追加外装下地検査」のご案内

実は、保険事故の**94%**が
「**雨漏り**」でした!



保険事故内容の割合
(当社保険付保物件の戸建住宅に対して、当社調べ)

事故が発生すると…、いろいろな問題が起こります。

お客様に多大な
ご迷惑が…。

信用の失墜
につながる…。

対応にかかる時間と費用
を考えると…。



JIOの
「追加外装下地検査」が
雨漏りの不安を解消します。

JIOの「追加外装下地検査」とは？

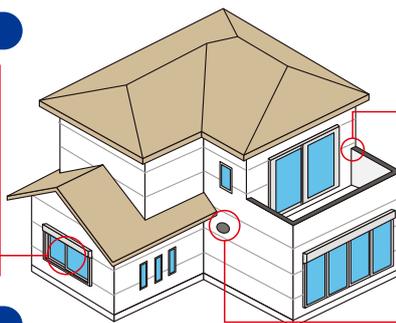
完成すると見えなくなる防水部分の検査です。



主な検査項目



窓等の開口部の防水措置



笠木の上端部や外壁との取合い部



外壁貫通部の防水措置

対象住宅

「JIO新築住宅瑕疵保険」にお申込みいただく階数3以下の住宅

検査のタイミング

「防水下地張り工事の完了時」となります。
木造住宅の場合は、外壁の下地等(防水紙等)の工事が完了した段階で現場検査を行います。

検査の方法

検査は目視または計測で行います。この検査は雨漏りに関する事故を減らす取組みとして行いますが、防水が必要な部位すべてを確認するものではありません。

累計検査数32万件*のJIOにおまかせください!

*2019年3月までの「追加外装下地検査」実施検査数

実際の検査指摘事例等をご紹介します。裏面をご覧ください。

実際に「追加外装下地検査」を受けた物件では

14%*に『指摘あり』

*2018年4月～2019年3月までの実施検査数約4.6万件に対して

検査してよかった!

検査指摘事例と施工のポイント

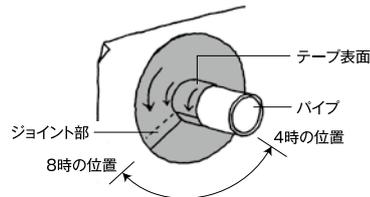
指摘事例① 貫通部

ダクトとの取合い部において防水措置が実施されていません。



ダクトと防水紙を専用部材(防水テープ等)で密着させる必要があります。

ポイント



- ジョイント部は上側のテープ勝ちとなるようにし、目安として4～8時の位置で終わるようにします。
- テープに「しわ」が入らないように入念に圧着します。(「しわ」は水道(みずみち)となり雨水が浸入します。)

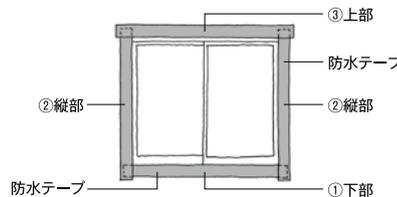
指摘事例② 開口部(サッシ廻り等)

サッシの枠と防水紙の取合い部で防水措置が実施されていません。



サッシ枠と防水紙を専用部材(防水テープ等)で貼り付ける必要があります。

ポイント



- 防水テープは①下部→②縦部→③上部の順に貼ります。
- 下部テープ横端が縦部テープを突き出ないように、また、縦部テープの上部が上部テープを突き出ないように貼り付けます。

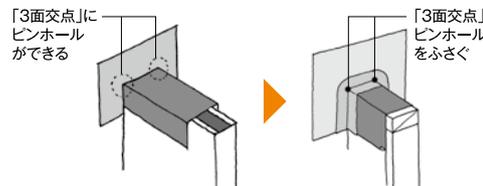
指摘事例③ 笠木と外壁の取合い部

笠木と外壁の取合い部の防水措置が実施されていません。



取合い部の三面交点のピンホールをふさぐように専用部材(防水テープ等)を貼り付ける必要があります。

ポイント



- 伸張タイプ*片面粘着防水テープを使用し、しわが入らないように貼り付けます。

*伸張タイプの防水テープを使用すると、しわが入りにくく、ピンホールがふさがりやすくなります。

雨漏りしやすい部分や施工のポイントとなる部分を検査することが、雨漏り防止につながります。

検査後の報告

検査結果(指摘箇所がある場合はその内容を含む)を事業者様へ報告いたします。「報告書」と「検査写真」はJIO Web システムからご確認ください。
※結果に応じて是正・施工いただいた部分の写真の提出をお願いします。

ご注意

この検査をご希望の場合は保険申込時に「追加外装下地検査実施住宅」のコースを選択してください。保険申込後の追加申込・キャンセルはできません。